Wine AustraliaとWine Victoria、ビクトリア州のワイナリー支援にA $886,667の提携

州政府がA $540,000を拠出する3年間のプログラムで、持続可能性、バイオセキュリティ、データ活用、輸出を支援する

2026年11月13日（金）



Wine AustraliaとWine Victoriaは11月12日（木）、オーストラリア南東部のワイン産地であるビクトリア州のブドウ畑やワイナリーの競争力向上を目指すプロジェクトに資金を提供するため、総額A $886,667の3年間の提携を結んだと発表した。

Wine Australiaが発表した共同声明によると、このプログラムは、Wine Victoriaが確保したビクトリア州政府のA $540,000の資金と、Wine AustraliaがAustralian Wine Future Fundを通じて拠出するA $346,667の共同投資で構成される。発表された総額に基づくと、州政府の拠出は約60.9%、Wine Australiaの拠出は約39.1%を占める。

発表された資金は今後の取り組みに充てられるもので、すでに支出された金額ではない。両団体は、年度ごとの予算内訳や、このプログラムによって売上高、輸出、生産性がどれほど伸びるかの試算を公表していない。

この提携はVictorian Wine Strategy 2025-2030を支援し、全国的なOne Grape & Wine Sector Planと足並みをそろえることを目的としている。Wine Australiaは、オーストラリアワインの研究、市場開拓、規制関連サービスを担う全国的な法定機関。Wine Victoriaは、州内21のワイン産地のブドウ栽培農家とワインメーカーを代表する業界団体である。

両団体によると、資金は持続可能性、バイオセキュリティへの備え、経営判断、輸出能力に焦点を当てたプロジェクトに充てられる。現地見学会、ワークショップ、生産者向け実演、ウェビナー、デジタル資料、ベンチマークツール、持続可能性とバイオセキュリティに関する教育、さらにワイナリーの商業面や輸出に関する判断を支援する消費者市場の分析などが予定されている。

Wine Australiaの最高経営責任者（CEO）、Martin Cole氏は、この提携は研究、技術的専門知識、市場情報をワイン事業者が実務に活用できる情報へとつなげるためのものだと述べた。声明で同氏は、この連携により、ビクトリア州の生産者が持続可能な取り組みを導入し、バイオセキュリティ計画を強化し、より多くの情報に基づいて経営判断を下し、輸出市場の消費者に関する知見を活用できるようになると語った。

Wine Victoriaの最高経営責任者（CEO）、Stephanie Duboudin氏は、このプログラムによって州のワイン戦略の実行を加速し、変化する事業環境に対応するための実用的なリソースを生産者に提供できると述べた。ワイナリーやブドウ栽培農家は、持続可能性、バイオセキュリティ、事業実績、市場競争力をめぐる期待が高まる環境で事業を営んでいると同氏は語った。

この取り組みは4つの主要分野に重点を置く。1つ目は持続可能なワイン用ブドウ栽培で、環境面の実績向上を目指す事業者を支援する。2つ目はバイオセキュリティと業界の備えで、リスクへの認識を高め、対応力を向上させる取り組みを含む。3つ目はデータ活用とより良い経営判断で、生産者が財務・業務情報をより効果的に利用できるよう支援する。4つ目は輸出市場の消費者に関する知見で、市場調査を、輸出機会の評価にワイナリーが活用できる指針へと結びつけることを目指す。

Wine Australiaによると、ビクトリア州との提携は、業界に実用的な成果をもたらすプロジェクトへの共同投資を呼び込むことを目的としたAustralian Wine Future Fundの一部、Research & Innovation Fundを活用する。同団体は、連邦政府によるマッチング拠出、連邦・州政府の助成金、パートナーの投資を組み合わせ、同基金全体で5年間にオーストラリアのブドウ・ワイン業界にA $50 millionをもたらす見込みだと説明した。このうちA $35 millionは研究・イノベーション事業に、A $15 millionはイノベーションの隔たりを埋めることを目指すベンチャー投資ポートフォリオに充てる計画だ。

11月12日の発表では、どのビクトリア州内の産地や個別事業者が最初に支援を受けるのかは明らかにされず、3年間の連携に関する具体的な成果目標も示されなかった。州内全域で普及支援、知識移転、技術情報の導入、能力構築の取り組みを拡充するとしている。